

船腹が大分樂になることを指摘してゐる。

ニューヨーク來電に依れば今回の戦勝ニュースは米國民に非常な感激を與へた様子で、ヘラルド・トリビュン紙は

アフリカ作戦の最後の段階は決意と巧妙さで、大膽的な重慶を以て展開された。今や歐洲大陸は全く要塞である。右要塞の外廓は蹂躪され、今や本丸が聯合軍の襲撃を待つてゐるのだ。

と述べてゐる。兩港陥落のニュースはモスクワラジオ並にソヴィエト各紙に大膽的に掲載され、カイロに於ては聯合軍の成功はエル・アラメイン以來の最大の勝利として歓迎され又シドニー來電に依れば海軍人はまるで氣狂ひのやうになつて喜んでゐるといふ。兩港の喪失はローマ並にベルリンに於ては八月午後六時の公報で簡単に以上のニュースが傳へられたに過ぎない。

中央社、宣九日發

重慶軍事委員會スポークスマンは聯合軍のチユニスム、ドゼルタ兩港占領に關し次の如く語つた。

兩港の陥落は聯合國が全北阿を占領したことを意味する。この結果歐洲、アフリカ、近東にある總ての聯合國は互ひに連絡され、巨大な戦線が形成し、樞軸軍を包圍する態勢を遂へるに至つた。今回の兩港の占領は侵略國家の崩落が緒に附いたことを示してゐる。イタリイは北阿からは一衣帶水の近距離にあるから、先づ同國が聯合國からの最初の致命的打撃を受け、膝を屈するに至るだらう。北阿の炎熱地は汗と血をもつてかかる程かしい戦果を収めた聯合國軍の勞は多とすべきであらう。



海外特殊情報 第百十二號

昭一八・五・一五出
情報局 情報課

○西班牙が平和を提唱

トランス・オーシャン放送、マドリード十日發

スペイン總統フランコ將軍は目下夫人令嬢、軍並に政府の首腦を帶同してスペイン國內各地を巡歴してゐるが九日アルメリアに於て六萬の群衆を前に平和提唱の演説を行つた。スペイン外相ホルダナ伯が即時平和克復の爲にスペイン政府が居中斡旋の勞を取る用意ある旨確言した後だけフランコ將軍の言明は特に重視されてゐるが、演説要旨次の通り。

スペイン政府の外交政策は國民復興の當時から直截明瞭であつたが現在に於ても、スペインの歴史と人類への奉仕及びその重要性とに鑑みスペインが値する重みを有つことを要求する。全世界が血の海に捲き込まれてゐる際、我々はローマ法皇と、聲を共にし各國民の常識に訴へたいと思ふ。全世界は今や三ヶ年半に亘つて戦争に従事してゐるが、斯くの如き長い時日の後に於ては憎悪を除き、各國を近づける爲に平和について考へてよいと思ふ。交戦各國が斯くの如き申し入れに對し、一切耳を塞がうとも、それは決して戦争を終結出來ないといふ意味ではない。現戦争に於て、交戦各國は全く行き詰つた。交戦國の何れも

相手國を破砕する方なく、勿論非常な犠牲を敢てすれば勝利を収めうるかも知れないが、遅かれ早かれ北方か南方か東方か、或ひは西方に於て、均衡状態が持ちあがり、何等か豫見されない事件が持ちあがらない限り今日彼等の拒否する所を受け入れねばならない結果になるだらう。國民の志氣が壊れ、失墜した大衆が悲劇を要求する人々を立ち向ふことになれば各國は何れも平和と正義と世界の正しい分配を口にする外ない結果にならう。以上を基き交戦各國に比し冷静な氣持で戦争を見守つてゐる我々は平和を齎らすのを遅らざることは氣狂の沙汰だと考へる次第だ。世界政壇の正面は兎に角として、その背後には廿五年に亘つて傳播された憎悪と餌を待つロシアの野蠻主義、我々の文明の否定その他我々が大事にしてゐる一切の破壊が控へてゐるから自分は敢てかく云ふのである。

△ドイツ外務省取りあはず

トランスオーシャン放送ロベルリン十日發

フランコ將軍の演説に關し、ドイツ外務省のニポークスマン、シユモット博士は十日次の通り言明した。

現状に鑑み平和を考へるといふ様なことはあり得ない。カトウインの森に於ける虐殺事件等に徴しても米英兩國は歐洲をボルシェヴィズムの犠牲に供しよと志してゐる。

△米國務省も強硬態度

トランスオーシャン放送ロベルリン十日發

UPワシントン電報によれば米國務省筋ではフランコ將軍の演説に關聯し、

米國務省の態度は總統が最初府中調停を企圖した場合と同様樞軸軍を最終的に打破するまで戦争を繼續するといふのに變りはない。

と洩したと言はれる。

◎サイプラスに米軍上陸

米通信ロストツクホルム十二日發

ストツクホルムの新聞社に達したドイツ側の報道に依れば東地中海の英領サイプラス島に多数の米兵の集結が傳へられ、同島の公共建築物には軒並に米國旗が英國旗と並んで懸つてゐるといはれる。サイプラス島はトルコ海岸に近く、聯合軍が歐洲に侵入する場合の基地として好適の場所である。

◎英米首腦會談内容豫想

中央社ロニユーヨーク十一日發ロンドン來電ロルーズヴェルト、チャーチル第五次會談